

知床の森から

平成8年12月 第46号



北見営林支局 ☎ 099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地
知床森林センター ☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

エソコザクラ
(サクラソウ科)

工作に興じ講演に学んだ

好評だった『講演と木工体験』

センターのイベント『第12回森とのふれあい』が11月10日(日)、センターの会議室で行われました。室内で行うのは初めての試みでした。当日参加したのは総勢32名(子供2名)で、今回は斜里町民を対象として実施しました。

午前9時から11時までが木工体験、その後12時まで講演というスケジュールです。

木工体験は「菜作り」と「プレート作り」です。菜はセンターで用意した押し花や押し葉を材料にしオリジナル菜の作成です。みなさん楽しんでおりました。

組んでいました。またプレート作りは、輪切りプレートに絵柄を描き、彩色を施し仕上げるといふもので、みなさん細心かつ真剣に取り組んでいました。どちらの組も質問、囁声、笑いと賑やかにおおいに楽しんでいました。そして出来栄に満足そうでした。

引き続き講演の部に入りました。講演者山岸壽氏は北見工業大学工学部教授で、「有機化学・薬学研究」が専門で山野の植物に詳しく、講演の題名は『役に立つ身近な植物』です。

スライドで紹介される身近な植物の薬用効果、山菜としての利用法などについて紹介され、とくに山野草の利用の歴史と背景、アイヌ民族との関わりなど興味のあるものでした。

植物の名をメモしている人もいました。

講演後多くの質問が寄せられ、先生は丁寧に応えてくれました。

参加者のみなさんの、山野草に対する関心の深さを見ることができました。

こうして今日のイベントは予定どおり12時をもって、好評裡に終えることができました。



知床の森

ドングリ豊かに実る

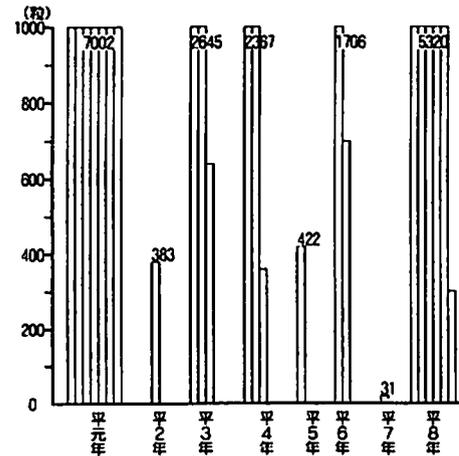
〜ミズナラ・豊凶の差くつきり〜



今年、知床の森ではドングリ(堅果)がよく実った。「知床国有林におけるミズナラ堅果結実調査」のために設定されている調査木のほとんどに実がついた。

8年間のデータでは、平成元年に次ぐ堅果生産額となった。センターでは、調査木一本当り年平均堅果生産額を、豊作・並作・凶作と3区分しているが、本年は豊作である。平成2・5・7年は凶作だったから、比較すればその差は歴然としている(1図)。では、どのようなドングリが実ったのか。堅果は大きく重いほど完熟しているが、一般的に小さくとも2g以上あれば発芽機能は果たすことが可能である。(2図)は個体重量2.1g以上の堅果が全生産額に占める割合を示し、その平均重量も併せて図示している。これによればほぼ凶作年を除き、2.1g以上の堅果はほぼ50%以上生産されている。今年は堅果1個当り2.9gを示し、大きなドングリが多かった。

(1図) ミズナラ堅果生産量(調査木1本当り年平均粒数)



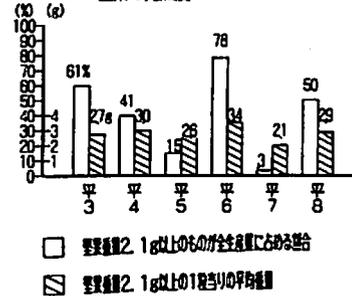
また(3図)によれば、虫害や腐食菌などに侵されない健全堅果の全生産額に占める比率は個体重量が重くなるほど高くなる傾向が見られた。全生産額と完熟度合と健全度から今年の堅果の結実状況は、豊作といつて良い。

ただ2.1g以上の個体の比率が高くなかったのが意外である。これは知床国有林にあって、気象などの影響で質面で充実しきれないなんらかの理由があったものと思われる。

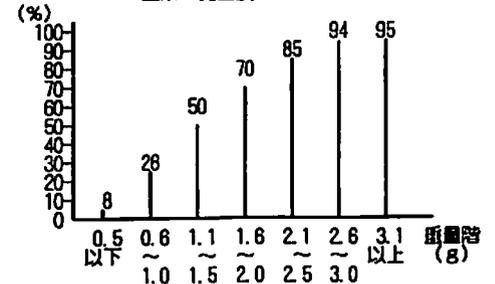
しかし、現地における状況は、豊かに実ったドングリが、散乱して落ちており、実りの森の様相となっている。

大凶作の昨年を耐えた野生動物にとって今年は大豊作らしい年となったことだろう。

(2図) 堅果の完熟度



(3図) 堅果の健全度



人事異動がありました

12月1日付で人事の異動がありました。
知床森林センターの5代目所長に、北見営林支局より須合賢技官が就任しました。大田賢司前所長にはご苦労さまでした。新所長以下職員一同今後とも頑張りますのでよろしくお願いいたします。

